

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第316回

さかなクン（宮澤正之）

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年7月18日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

## 好きに勝るものなし。

さかなクンは、日本のタレント、イラストレーター。本名は、宮澤 正之。父は囲碁棋士の宮沢吾朗九段。東京海洋大学名誉博士、東京海洋大学客員教授。東京都葛飾区生まれ、神奈川県綾瀬市育ち、千葉県館山市在住。アナン・インターナショナル所属。

## Column

大きな声で『はい！その通りです！』と応えたいくなるようなストレートな言葉です。さかなクンがテレビに出演し始めた頃は、魚ネタ芸人といったイメージのタレントさんでした。当時は、そんなさかなクンが大学の客員教授になるなんて誰も予想していなかったと思います。大学の先生は高校までの“教育者”というイメージよりも“研究者”というイメージのほうが近いような気がしています。そういう意味で、さかなクンの“魚が大好き！”という気持ちと、好きなことへの“探究心”の驚くほどの強さを感じます。

私はスポーツの世界に長く携わっており、選手時代も指導者となった現在も、自分なりの“こだわり”を持って取り組んでいます。これまで長く続けてきて、その中で徐々にこだわりを持つようになった理由も、やはり『好き』だからであり、追求する度に新しい発見があってどんどんのめり込んで今があります。始めた当初より今の方が好きだと思えますし、そう思えるのはここまで時間をかけて様々な経験を積んできたからこそ得られたのだと思います。

長く続けていると当然のように経験することですが、これまで述べてきたような好きになる楽しい瞬間だけではありません。時々、今までの考えを完全にひっくり返されるようなショックを受け、好きだという気持ちにまで疑いを持ち始めてしまい、素直に向き合うことが辛くなる時期もあります。ただ、そんな風に悩んだ時も最終的には“やっぱり好きだから”という気持ちが不安を上回ることで、また新たに向き合うパワーが湧いてきます。私個人の感想でしかありませんが、辛い時期を振り返ってみても好きが増していないだけで嫌いにはなっていないように思います。つまりいた場所で止まっているだけで後退はせず、気持ちが入れればまた前進を始めるといったイメージです。

好きなことであれば何度も頑張っって前を向いて取り組む気にもなりますが、そうでないことに対しても逃げずに立ち向かわなければいけない時があります。もちろんその瞬間は私にもあって、そんな時、私はそのことの面白さを探すようにしています。きっと私が苦手なことを得意としている人がいて、その人には私にとってのスポーツのような魅力を感じていて“超オススメ案件”なのです。意外と誰もが無意味に感じるようなことは少ないと思います。自分の可能性を広げる意味でも多くのことに興味を持つことで『好き』が持つパワーを引き出していきましょう！